

# たてはく

令和4年度・前期特別企画展

## いざ、立山へ！ —鉄道にみる立山観光—

会期：令和4年7月16日(土)～9月4日(日)

立山黒部アルペンルートに代表される立山の観光開発は、昭和27年（1952）の富山県総合開発計画により本格的に始まりました。同年4月1日に、立山開発鉄道株式会社（現立山黒部貫行株式会社）が設立され、12月8日に立山ケーブルカーが着工、29年8月13日に開通します。その後、室堂に至る道路建設や、黒部ケーブルカー、立山ロープウェイ、立山トンネルの開通を経て、46年6月1日には富山県側の立山駅と長野県側の扇沢駅を結ぶ全線が開通しました。また、前年の45年には、大阪からの急行立山が、名古屋からの急行むらどうと名古屋鉄道の急行北アルプスが、富山地方鉄道立山駅まで乗り入れ、立山へ向かう利用者の便が図られています。

本展では、標高2,450メートルの雲上へと人々を誘うアルペンルートを中心に、主に戦後の立山観光と立山への旅客輸送に活躍した鉄道の軌跡をたどります。（鈴木博喬）

### ●企画展担当学芸員による展示解説会

7月16日（土）、8月13日（土）、8月27日（土）  
いずれも14：00～

開催場所 立山博物館展示館1階 企画展示室  
開館時間 9：30～17：00（入館は16：30まで）  
観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下無料  
会期中の休館日 月曜日（ただし、7/18と8/15は臨時開館）  
※7/15（金）は臨時休館致します。



## 目次

令和4年度・前期特別企画展	
「いざ、立山へ！ —鉄道にみる立山観光—」	1
たてはく新任紹介	2
現代的イベント「布橋灌頂会」開催！	2
学芸課発 立博雑学	
第5回 「立山曼荼羅」立山博物館G本と立山	3
ボランティア活動報告・新年度も精力的に活動しています！	3
夏の催し案内	4
新発売！『新 綜覧 立山曼荼羅』	4
かもしか園の「サヨ」が天寿を全うしました	4
編集後記	4





## たてはく新任紹介



### 学芸課長 奥澤 真一郎

7年ぶりに立博に戻って参りました奥澤です。立博での楽しい思い出や美味しい食べ物のことは忘れませんが、肝心の仕事のことは忘却の彼方に行ってしまい、日々冷や汗をかきながら過ごしています。

立博は今年31年目。私も教員になって31年目となります。新採研修では、開館直後の立博を見学したことを覚えています。二度も立博のお世話になるとは夢にも思っていませんでしたが、これも何かのご縁。精一杯頑張りますので、よろしくお願いします。



### 施設管理課嘱託 碓井 厚夫

昨年9月より働かせて頂いております。前職での定年あたりから、「元気で働ける残り少ない時間、もっと違った世界で仕事をしてみたい」と思い、立博にお世話になる事になりました。雪には慣れているつもりですが、この冬の圧倒的な積雪にその自信も打砕かれてしまいましたが、芦峠の皆様温かさに背中を押され、何とか越冬する事が出来ました。半年経った今でも不慣れで戸惑う事が多いですが、皆さまのお役に立てるよう精進してまいりますので、よろしくお願いします。



### 施設管理課嘱託 志鷹 伸二

4月からまんだら遊苑で施設管理の仕事に就いています。覚える事も多岐にわたってありますが、一つ一つ丁寧に作業を行い、来苑されるお客様に快適な時間を過ごして頂けるよう施設管理に努めてまいります。また、地元暮らししながら知らない事もたくさんあり、日々学びながらまんだら遊苑の従業員の皆さんと楽しく仕事に励んでいます。これからもどうぞ宜しくお願い致します。



### 教算坊 佐伯 美千代

花や生き物が大好きです。近所に住んでいることもあり、年に数回教算坊の庭園を見に来ていましたが、まさか自分がここに勤めることになるとは(笑) 仕事を始めてから毎日新たな発見があり、楽しくて仕方ありません！特に一年を通して植物の成長をみられることが幸せです！まだまだ名前や育て方も分からない花や生き物が多いのですが、いづれ教算坊の魅力の一部としてお客様に紹介できるように頑張ります。



## 現代的イベント「布橋灌頂会」開催！



死後、立山山中の「血の池地獄」に堕ちると信じられていた女性たちを救うべく、江戸時代には芦峠寺集落で閻魔堂・布橋・彌堂を舞台として「布橋灌頂会」が行われていました。

明治以降は神仏判然令の影響もあって執り行われなくなったのですが、平成8年(1996)の国民文化祭の一環で、歴史史料をもとにした現代的イベント「布橋灌頂会」として復元されました。その後、平成17年と18年のほかに不定期で数度開催されましたが、平成23年の開催以降は「3年に一度」となり、平成26年、平成29年に開催されました。

令和2年9月にも開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による予防対策で令和2年と令和3年と2度延期となり、本年9月に感染症対策を取りながらですが5年ぶりに開催されることになりました。開催当日は「無観客」での開催となるため、立山博物館では布橋灌頂会開催記念公開展「布橋を渡る一女性たちの救いと祈り」と題して、布橋灌頂会について紹介したいと思います。ぜひ、お越しください。(細木ひとみ)

### 布橋灌頂会開催記念公開展

#### 「布橋を渡る一女性たちの救いと祈り」

会期：8月23日(火)～10月2日(日)

会場：立山博物館展示館 2階常設展示室(一部)

観覧料：常設展観覧料(一般300円、大学生以下・70歳以上無料)

休館日：月曜日(ただし、9月19日は開館)、9月16日(金)

#### 【担当学芸員展示解説会】

9月3日(土)、9月18日(日)、9月24日(土)  
いずれも14:00～



「布橋灌頂会絵巻」(部分)、個人蔵(芦峠寺宝泉坊旧蔵)







学芸課 発

## 立博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

## 第5回 「立山曼荼羅」立山博物館G本と立山

「立山曼荼羅」立山博物館G本とは、旧「広川家本」である。旧所蔵者（広川家）宅は新潟県糸魚川市水保にあり、立山博物館で活用して欲しいとの申し出により令和2年9月29日に寄贈された。立山博物館G本の由来については未詳で、一幅仕立ての軸裏には「立山畧圖」と墨書されている。

旧所蔵者家と立山との関わりを探る上で紹介したいのが、芦峯寺閻魔堂の前庭にあった芦峯寺教蔵坊が願主となって文政8年（1825）7月に寄進された銅造の地藏菩薩半跏坐像（現在、小矢部市の観音寺境内にて安置）である。この地藏菩薩像の御衣や蓮弁、反花などに銘があり、寄進者は信州松本町を中心とした立山講の人々であるが、その中に水保村の「廣川長右エ門」とその妻（「同人妻志」）、「同 源二右エ門」、「同 徳左エ門」、「同 九郎左エ門」、「同 徳右エ門」の名前が刻まれている〔写真1、2〕。旧所蔵者に何うと、自身の家とは別の家（本家筋）ということであるが、水保村の広川家と芦峯寺経蔵坊との関わりがうかがえる。

同じく糸魚川市山寺に所在する金蔵院（高野山真言宗）にも四幅一對の「立山曼荼羅」金蔵院本があり、こちらも新潟県糸魚川から長野県松本を結ぶ千国街道（通称：塩の道）に沿って信濃国に檀那場を形成した芦峯寺宿坊家の経蔵坊や宝伝坊との関わりが考えられている。ただし、立山博物館G本は、布教活動に用いられた「立山曼荼羅」と似た構図である金蔵院本とは異なり、岩崎寺集落で頒布されていた木版立山登山案内図をもとに制作されたとみられるのである。（細木ひとみ）

※『新 綜覧 立山曼荼羅』の立山博物館G本の資料解説（141頁）は1972年立山町史編纂室調査・刊行の『立山请来延命地藏銘』などを参考に記した。広川家に関する銘〔写真2〕を改めて確認したところ、前書の記載に誤りがあることを発見したため、本稿で紹介する。



写真1(上) 観音寺の銅造地藏菩薩半跏坐像（反花座に銘あり）  
写真2(下) 反花座に刻まれた水保村の「廣川」家

ボランティア  
活動報告

## 新年度も精力的に活動しています！

4月16日（土）午前10時から、ボランティア総会が芦峯公民館で開催されました。佐伯照代会長をはじめ、会員20名が出席しました。

総会後には第1回教養講座を開催し、当館学芸課の吉野主任専門員による「立山炭鉱から見える現代と未来—エネルギー政策の歴史から—」という現代社会にも通じるテーマの講演に、ボランティアの皆さんの真剣なまなざしが向けられました。

4月24日（日）午前中には、毎年恒例の教算坊の池掃除を行いました。池の水を抜いて泥や落葉を掻き出し、池底や石積みなどを隅々まで磨きました。

長引くコロナ禍の影響で、昨年度はボランティア活動の機会となる多くの行事が中止となってしまいましたが、今年度こそボランティアの皆さまのお力を得ながら、行事を実施できる方法を模索していきたいと考えています。

今後もボランティアの皆さまには、立山の自然や歴史を自ら学び、それを多くの方々に楽しく伝えていく活動をしていただきたいと思います。（石崎康弘）



佐伯照代会長の挨拶



池掃除の様子





# 夏の催し案内

イベントの詳細は  
博物館まで  
お問合せください!

## ◆立博ぶらり探訪

立山博物館の施設や周辺の史跡をぶらりと巡りながら、立山の歴史や文化について学芸員が解説します。

開催日：7月23日(土)  
13:00~15:00

場所：展示館、教算坊、閻魔堂ほか  
定員：15名(要事前申込)  
※応募多数の場合抽選  
参加費：無料



## ◆たてはく探検隊

立山曼荼羅の絵解きやえんま様のお話など、夏休みに立山の歴史や文化を楽しく学べます。

開催日：7月30日(土)  
場所：展示館、教算坊、閻魔堂ほか  
対象：小学生(保護者同伴)  
定員：25名(要事前申込)  
※応募多数の場合抽選  
参加費：無料



## ◆ミュージアム de ナイト in 芦峯寺

「地獄博物館」に变身!! ライトアップや仮装したスタッフなど、普段と違う夜の立博を楽しめます。

開催日：8月6日(土)・7日(日)  
18:00~21:00  
※入館は20:30まで

場所：展示館、教算坊、  
山岳集古未来館  
観覧料：展示館300円、企画展200円、  
山岳集古未来館と教算坊は  
無料



## ◆まんだらナイトウォーク

—光りと香りのページェント—

夜のまんだら遊苑に無数のアロマキャンドルを灯し、光と香りで幻想的な空間を創出します。

開催日：9月10日(土)・11日(日)  
18:30~20:30  
※入苑は20:00まで

場所：まんだら遊苑  
観覧料：一般400円、大学生以下と  
70歳以上無料



## 新発売!『新 綜覧 立山曼荼羅』

立山信仰を語る資料として、布教活動に用いられたとされる「立山曼荼羅」は欠かせません。そこで、立山博物館では令和3年度の立山博物館開館30周年記念として、現在確認している52点すべての立山曼荼羅を掲載し、最新の研究成果なども加えた『新 綜覧 立山曼荼羅』を3月に刊行いたしました。A4判・144ページ・オールカラーです!ぜひお買い求めください!



販売価格：1冊1,800円 ミュージアムショップで販売中!  
または当館HPからメールでお問合せの上お取寄せください。  
(別途送料がかかります。)

## かもしか園の「サヨ」が天寿を全うしました

当館かもしか園で飼育していたニホンカモシカのサヨ(♀)が、5月6日(金)10:30に永眠しました。満17歳でした。サヨは平成16年にかもしか園で生まれ、以来職員一同およびご来館者や地元の皆さまに愛されてきました。4月24日頃より起き上がれなくなり、その後は元気に餌を食べていたようですが、5月6日に体調が急変し、職員に見守られつつ死亡しました。死因は老衰と推定されました。これまでサヨをあたたく応援して下さった皆様に、感謝とお礼を申し上げます。

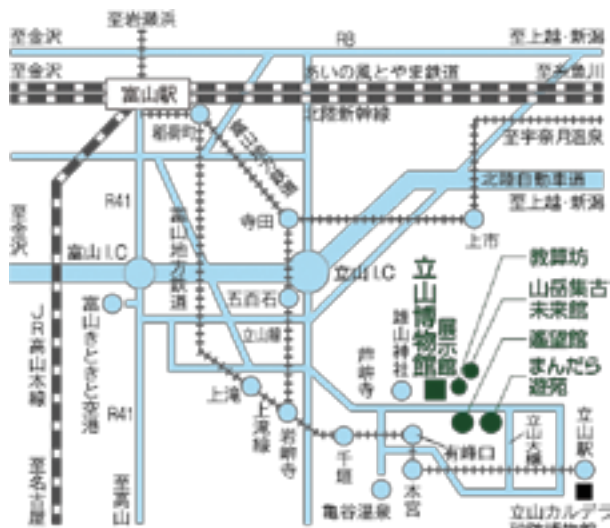
## 【おことわり】

本号に掲載する企画展等や各種行事につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止やその他の事情により、タイトルや内容、募集方法等を変更するか、中止する可能性があります。その際は適宜HP等にてご案内します。詳しくは当館までお問い合わせください。

## 編集後記

今年5年ぶりに開催される布橋灌頂会は初の「無観客」で行われます。コロナ以前と同じようにいかないことが多いですが、世の中が徐々に前向きになってきています。立博でも、今年度こそは「ウイズコロナ」でイベントを開催できるよう目指しています。(坂口)

## 案内図



- 最寄り駅  
富山地方鉄道立山線千垣駅  
下車徒歩(約2km)  
※日曜を除き町営バス運行  
「雄神社前」下車すぐ
- 自家車で  
JR富山駅から 約45分  
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分  
富山インターチェンジから 約35分  
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のホームページはこちらから。



人間と自然のかかわり方を学ぶ



## 富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1  
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

<https://www.pref.toyama.jp/1739/miryokukankou/bunka/bunkazai/home/index.html>

FacebookとTwitterあります!

立山博物館

